

夜間頻尿診療の現状

監修 柿崎秀宏 旭川医科大学腎泌尿器外科 教授

夜間頻尿は男女を問わず下部尿路症状のなかで最も頻度の高い症状で、QOL への影響も大きいことが疫学調査で示されています。夜間頻尿の病態には、前立腺肥大症や過活動膀胱などの膀胱蓄尿障害に加えて、多尿・夜間多尿や睡眠障害などの因子が関与しています。夜間頻尿と生活習慣病との関係も深く、夜間頻尿診療においては、泌尿器科的側面以外に全身的な観点からの介入も必要となってきます。今回は、夜間頻尿診療の現状について、Office Urologists の先生方にアンケート調査をさせていただきたく存じます。

アンケート実施要項

調査対象者：日本泌尿器科学会認定専門医（開業医）50名

有効回答数：47名（有効回答率94%）

調査方法：FAX, E-mailで配布・回収

調査対象地域：全国